

三重創生ファンタジスタ News

三重創生ファンタジスタ養成に関連した情報をお届けするニュースレターです！

三重創生ファンタジスタ資格取得者が就職活動を行っています！

三重創生ファンタジスタは、「地域課題に対して深い関心を持ち、主体的に活躍できる人材」として、三重県内の企業に広く認知されるようになってきました。新卒採用の提出書類の例として、三重創生ファンタジスタ資格の証明書を記載している企業も増え、三重創生ファンタジスタに対して県内企業の皆様も期待を寄せています。

三重創生ファンタジスタ資格の所定の条件を満たし、資格取得証明書もしくは資格取得見込証明書を取得された学生達が、現在本格的に就職活動を行っています。学生の方も採用担当者の方も「三重創生ファンタジスタとは何か」、「三重創生ファンタジスタとして何を学んできたのか」などについて、面接での活発なやり取りをしていただいています。

就職支援情報

下記の企業は、新卒採用の募集要項の中に、提出書類の例として三重創生ファンタジスタ資格の証明書を記載している県内企業です。(掲載順は順)

- ◆ 株式会社マツヤグループ本社
- ◆ 橋本電子工業株式会社
- ◆ 中外産業生産株式会社
- ◆ 生活協同組合 コープみえ
- ◆ 株式会社 松原鉄工所
- ◆ 株式会社 松原電子計算センター
- ◆ 株式会社 水貝製作所
- ◆ 三重大学 (事務職員採用試験 (A) (本学卒業 (見込) 者対象))
- (「(様式2)履歴書」欄の中に三重創生ファンタジスタ資格の取得状況の記載欄があります)
- ◆ 株式会社 光機機製作所
- ◆ ICD Aホールディングス株式会社

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/job-hunting-info/>
<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/fantasista/>

令和元年5月8日(水)の日本理解特殊講義「三重の歴史と文化」において、鳥羽市のOZ海島遊民くらぶ代表の江崎貴久氏に伊勢志摩の観光についてご講義いただきました。

今年度から、本授業では、ゲストスピーカーの授業をよりよく理解するために事前学習を取り入れ、グループ毎に与えられた課題を調べ、報告を行いました。学生たちは短い時間の中で、情報を収集しグループで報告をまとめ、ゲストスピーカーとディスカッションすることで、新しい知識を修得するだけでなく、「地域」での観光のあり方を考えるきっかけを得ていました。江崎氏の実践する地域住民が幸せになる観光から、学生たちは多くのことを学ぶことができました。

三重大学裏の耕作放棄地を複数の部活サークル連合で利活用！



三重大学が立地する栗真地区は、以前はピーマンやキュウリなどの一大生産地として有名でしたが、高齢化と農業人口減少に伴って25haもの耕作放棄地が存在します。灯台下暗しとも言えるこの地域の課題に対して、三重創生ファンタジスタクラブ、農らく、Meikuという農業・地域おこし系サークルが連合して耕作放棄地再生を実践するプロジェクトが発足しました。

30-40年放置され雑草や灌木が生い茂る状態から、地域住民の協力を得て一步一步農地へと再生していくプロセスを進めています。生産計画を立てて農産物を大学祭や直売所で販売するといった、自立的な活動にするための実践的な農業を学ぶとともに、からし菜を植えて和製マスタードを生産して障がい者施設の仕事づくりを行う農福連携や、町屋海岸でのイベント実施等の地域おこしも視野に入れた取組にしていく考えです。

OZ海島遊民くらぶ代表 江崎貴久氏による講義



PBL型授業「食と観光実践」 第一回事前学習が行われました

令和元年5月11日(土)に「食と観光実践」の事前学習1回目を実施いたしました。まずはフィールドワーク実施に向けたオリエンテーションと、お互いの顔と名前を覚える自己紹介を行いました。

三重大学や四日市大学、皇學館大学と普段とは違う学校・学年・専攻の人とコミュニケーションしながら、相互理解を深めていきます。

それに続いて、四日市大学・小林慶太郎先生から四日市とんてきを事例とした「ご当地グルメを活用した"まちおこし"とは？」と題して、食を通じた地域振興に関する講義をしていただきました。

今でこそ有名になった四日市とんてきですが、そこに至るまでの紆余曲折や関係者の努力、活動を継続するための資金調達のやり方など、具体的な説明に多くの学生たちが興味を示していました。

次に、三重大学・山本裕子先生より問題解決のフレームワークを学ぶワークショップを実施していただきました。地域における問題とは何か、根本原因を問いかけるフレームワークについて、自己探求的な問題設定から実践的に学ぶワークショップを通じて、思い込みや他人の意見に左右されずにデータや客観的事実に基づいた現状把握ができるような考え方を学びました。

また、各グループにおいてワークショップした内容を相互発表することで、資料作成とプレゼンテーションを練習しました。今後、地域におけるフィールドワークを実施するに当たって重要な考え方、探求型学習の進め方を理解することで、複雑な地域の問題を解決するプロセスを学んでいきます。



参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/20190511jizen.html>

2019年度Jobキャラバン を開催しました！

Jobキャラバンは三重県内の高等教育機関の学生が参加するCOC+のイベントです。入学したばかりの新入生を主な対象とし、意識の高い時期に県内企業若手社員と対話する機会を設け、「将来の自分像」を考えることを促し、学生生活をより有意義に過ごすマインドセットの助けとなります。県内企業を知るきっかけにもなり、これによる県内就職率向上を目指す取組です。

平成31年4月19日(金)は四日市大学にて、「Jobキャラバン2019 in 四日市大学」を、令和元年5月18日(土)には三重大学にて「三重大学Jobキャラバン2019」を開催しました。参加者は社会人の方と活発に対話をしていました。



(参加企業等(順不同・敬称略)：

「Jobキャラバン2019 in 四日市大学」
株式会社アサプリホールディングス、三岐鉄道株式会社、
四日市市役所

「三重大学Jobキャラバン2019」
津市役所、井村屋グループ株式会社、ヤマモリ株式会社、
住友電装株式会社、三重交通株式会社、株式会社百五銀行

意識の高まった学生にはインターンシップ等の紹介を行い、イベント終了後も熱心に質問している姿が見られました。学生からのアンケート評価の総合満足度は非常に高く、「聞きたいことがたくさん聞けた」との声もあり、実りの多いイベントとなりました。



参考：<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/news/2019/20190419.html>

<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/20190518job-mie-u.html>

PBL型授業「地域発見型インターン」 インターンシップ前の事前学習



令和元年5月18日(土)に「地域発見型インターン」の事前学習1回目を実施いたしました。午前中はJobキャラバンの第一部として、津市役所、ヤマモリ株式会社、井村屋グループ株式会社、住友電装株式会社、株式会社百五銀行、三重交通株式会社から社会人の先輩方にお越しいただきました。

仕事のやりがいや、現在の就職先を選んだ理由などをざっくばらんに聞くとともに、自分の知りたいことを相手にシンプルに伝える、グループの中で自分ばかりではなく全体に有益になるような質問をするといった、コミュニケ

ーションの基本姿勢を学びました。

午後からは今年度のテーマである防災について、1959年の伊勢湾台風、2011年の東日本大震災を実例とした被害状況の概要説明、災害対策に対する自助・共助・公助の進め方、南海トラフ巨大地震を想定したハザードマップの読み込みと自宅や大学周辺の被害予測といった一連の取組を概観しました。今後、企業や行政への防災に関するヒアリングを通じて、地域における防災という課題をどのように異なるセクターを結び付けながら解決していくか、フィールドワークを進めていきます。

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/20190518job-mie-u>

みえインターンシップフェスタ 2019summerを開催しました！



令和元年5月21日（火）三重大学三翠ホールにおいて、「みえインターンシップフェスタ2019summer」を開催しました。本イベントは事業協働機関である一般社団法人わくわくスイッチ主催のものであり、COC+は共催として実施しています。インターンシップの事前研修会として、インターンシップに臨む前の心構えやインターンシップ体験生のプレゼンテーション、企業・学生との座談会、インターンシップ見本市等、三重県内の企業にも学生にも参考になる情報が盛りだくさんでした。今後も事業協働機関の皆様、三重県内の事業者様と共にインターンシップの施策に取り組んでいきます。

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/events/20190523-festa.html>

三重創生ファンタジスタの養成は

下記の事業協働機関とともに行っています

【高等教育機関】四日市大学、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学、三重県立看護大学、皇學館大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿大学短期大学部、高田短期大学、三重短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校

【自治体】三重県

【企業(50音順)】(株)アーリーバード、ICDAホールディングス(株)、(株)医用工学研究所、(有)オズ海島遊民くらぶ、(株)サン浦島、(有)深緑茶房、(株)ZTV、大王運輸(株)、中外医薬生産(株)、辻製油(株)、(株)ドリームエージェント、(株)中村製作所、日本土建(株)、(有)野瀬商店、橋本電子工業(株)、(株)ハツメック、速水林業、万協製薬(株)、

(株)光機械製作所、(株)百五銀行、(株)百五総合研究所、(株)ヒラマツ、扶桑工機(株)、(株)前田テクニカ、

(株)マサグループ本社、三重県商工会議所連合会、三重県商工会連合会、三重県中小企業家同友会、三重県農業協同組合中央会、(株)三重ティーエルオー、三重テレビ放送(株)、(株)メディアサボジャパン、(一社)わくわくスイッチ

三重創生ファンタジスタクラブに 新入生が入部しました

COC+の「三重創生ファンタジスタ資格」を推進する活動を学生目線で主体的に地方創生に取り組む部活「三重創生ファンタジスタクラブ」。3月から2019年入学の新入生に向け、自分たちの活動をどのようにPRし、三重県の地方創生に興味を持ってもらえるかの戦略を練り、プレゼンテーションや説明会、勧誘活動、新入生歓迎会など様々な計画を立てました。

クラブ幹部の現役学生たちは、毎日夜遅くまで会議を重ね、PR方法や資金繰り、日程調整などを行い、次々と計画を実行し勧誘活動を続けました。その結果、今年は約30名の新入生が入部しました。3月までは部員全体で10数名ほどしか居なかったのですが、今年はとても大きな団体になりました。人数が増えたことで、新たな地方創生の可能性が広がります。



参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/blogs-by-students/>

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成
国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構

<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/>